公明党土浦市議団
行政視察報告書

視察先　石川県加賀市　石川県金沢市　富山県富山市

日　程　令和５年８月７日（月）～８月９日（水）

参加者　平石勝司　吉田千鶴子　目黒英一　根本法子

視 察 先　石川県加賀市
視 察 日　R5年8月7日（月）14:00～15:00（市役所内にて研修）
　　15:00～15:30（のりあい号乗車）
視察内容　乗合タクシー「のりあい号」について
視察目的　平成２７年度から運行を開始した加賀市の乗合タクシー「のりあい号」の取り組みについて現地調査を行い、本市における今後の公共交通不便地域解消に向けたコミュニティタクシー拡充など公共交通政策に参考にする。
出 席 者　加賀市議会副議長　辰川　志郎　様
　　加賀市　政策企画部　企画課　リーダー　平田　圭範　様
　　加賀市　政策企画部　企画課　主査　國立　昇平　様
　　加賀市議会事務局　次長　奥村　外与彦　様

加賀市の現状について

加賀市は、人口 62,851 人（令和５年８月１日現在）、面積 305.87km²。市内には山代、山中、片山津の温泉があり、九谷焼や山中漆器などの伝統工芸など観光資源が豊富なまちである。来年３月に北陸新幹線の金沢～敦賀間の開業に伴い、加賀温泉駅に停車が決定したことから駅舎の工事が進められている。近年では、コロナ禍による観光入込客数の減少や 2040 年には人口が半減の危機など厳しい状況に置かれている。課題を解消するために、スマートシティ化を目指し、マイナンバーカード申請率 95.4%、交付率 84.2%（全国３位）はじめ、MaaS の推進やドローンの社会実装など AI 技術を積極的に取り入れている。

乗合タクシー「のりあい号」の取り組みについて

乗合タクシー「のりあい号」は、各町に設置された停留地点と病院・スーパーなどの施設や店舗の間で利用できる交通サービスとして、平成 27 年 10 月から市内全域で運行開始になった。タクシーとは違い、事前予約を行ってバス停から乗車するオンデマンド交通である。

対象は加賀市在住の方
料金は１回 500 円、事前予約制電話もしくはインターネット、市内５路線
上り（加賀温泉駅）６便、下り（各地区方面）５便で、上りは各地区から公共交通の結節点である加賀温泉駅、下りは加賀温泉駅から各地へ向かう。

主な質疑応答について

Q　年間の利用人数はどのくらいか。また、１便あたりの乗車率はどのくらいか。
A　年間、約 16,500 人の方が利用している。また、乗車人数が多いエリアと少ないエリアで差はあるが、１便あたり１.６人である。

Q　予約方法の電話とインターネットの割合はどのくらいか。
A　９割が電話予約である。

Q　病院は帰りの時間が分からないので、予約が難しいのではないか
A　バスの空きがある場合には、予約していなくても乗車できるよう柔軟な運営を行なっている。

Q　バス停はどのように決めたのか
A　公共性の高い場所を地元自治会で、地域住民の方が協議して決定した。

Q　バスが予約でいっぱいで乗れない時の対応について
A　ワンボックス以外にも乗用車型のタクシーでフォローしている。１ヶ月で数回ある。

Q　主な利用目的について
A　加賀駅前の加賀市医療センターが主な利用先である。

Q　マイナンバーカードの利用はどのように考えているか。
A　顔認証システムやマイナンバーカード認証など調査研究を行なっている。

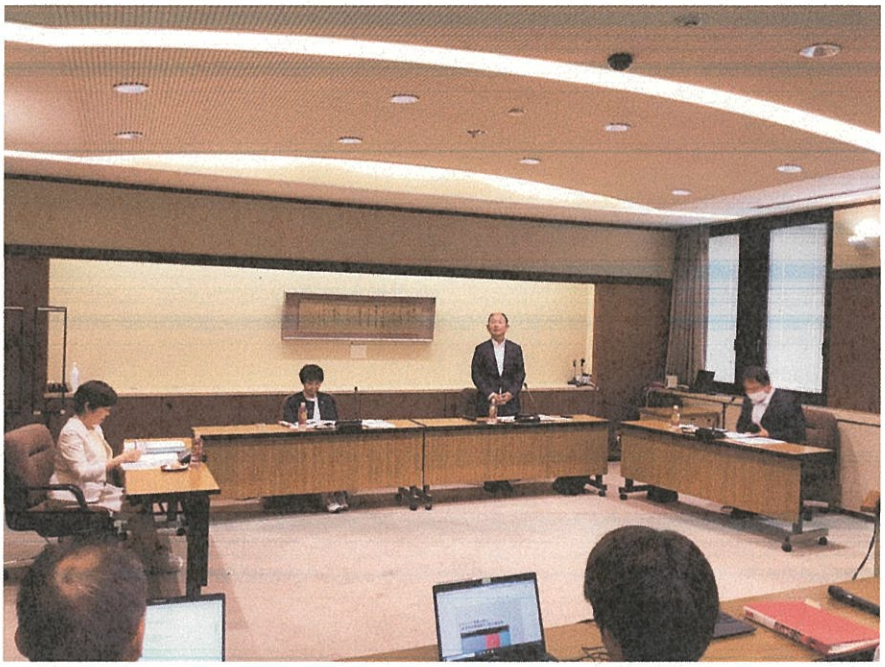
Q　加賀市公共交通アプリ「NoluDay」の利用促進の取り組みについて
A　加賀温泉駅前など人が多い場所で、チラシを配布し利用促進、啓発を行なっている。

Q　電話予約はどのようにしているか。
A　自宅からいつ何時にどこへ行きたいのかを伝えるとオペレーターが案内してくれる。

Q　エリアを越えた場合は、追加料金は発生するのか。
A　追加料金は発生しない。どこまで行っても片道 500 円である。

Q　年会費はあるのか。
A　年会費はなく、500 円の利用料のみである。

Q　加賀市を越えて、他市などへの乗り入れをしてほしいとの要望はあるか。
A　他市へ行ってほしいとの要望は市民から特に出ていない。



加賀市役所内での視察の様子

実際に加賀温泉駅までのりあい号に乗車して現地調査

所感

【平石】

本市において、コミュニティバスの運行が始まり、現在２路線が運行している。さらに、福祉を目的とした乗合タクシー土浦もあり、つちうら MaaS の実証実験が行われている。今回視察で伺った加賀市「のりあい号」は、目的地が公共交通のハブ拠点となっている加賀温泉駅と明確だが、本市においては土浦駅、イオンや協同病院や霞ヶ浦医療センターなど目的地が様々であり、加賀市の状況とは少し違うため今後も本市の特性に合わせた公共交通不便地域解消に向けた取り組みが重要であると考えます。

【吉田】

のりあい号は、加賀市在住の方で、利用者は事前に予約し、各町にある停留地点と病院・スーパーなどのあらゆる施設や店舗の間で利用できる交通サービスです。（相乗り型）多くの停車場が設けられていて買い物等利便性が図られています。車両は、それぞれのエリアごとに車両が巡回しその他にエリア横断車両があります。都合５台で対応されています。

また、加賀温泉駅で他のエリアに乗り継ぎができます。乗り継ぎの料金はかかりませんので１回の乗車券 500 円で済みます。（市内３エリア）また、福祉的な考えのもと身体障害者手帳等お持ちの方は半額となり、介添者が１人まで半額になります。また、予約をしていなくても乗車に空きがある場合は、乗せることもあるとお伺いしました。温かみのあるのりあい号との印象を持ちました。

以上の観点から本市のコミュニティバス「つちまるバス」にも将来の参考になる点もあるものと考えます。

なお、加賀市は、北陸新幹線が本年末に延伸されることで盛り上がっており、ジローラモのビデオメッセージ（第５弾）がとても印象的でありました。

【目黒】

はじめに加賀温泉駅新幹線誘致の説明を受けて、まち全体の盛り上がりを強く感じました。引き続き加賀市のりあい号について説明を受けました。のりあい号はバスよりも乗降場所(停留所)が多く、タクシーのように好きな時間•場所から乗車は出来ないとの事でした。 土浦市のりあいタクシーやつちまるバスとあまり変わらないだろうと想像していたので、利用者も混乱するのではないかと思いました。

しかし完全予約制で乗る場所と行き先を伝えれば最寄りのバス停と乗車時刻を指示してくれるとの事。高齢者でも予約と乗車は簡単に出来るそうです。

加賀市はデジタル田園健康特区にも選ばれているだけあり、のりあい号の予約にも AI を活用されているのは素晴らしいと思いました。
また乗車予約が容易なだけでなく、障害者手帳等の所持者が半額料金になったり、免許返納者へのチケット配布など、「のりあい号は福祉の観点で運営している」と担当の方がおっしゃっていたのがとても納得できました。
他にも 3 つのエリアを 4 つのコースが通り、更に横断便があり、エリア横断の際は乗り換えになるが、追加料金は掛からないそうです。本市でも参考にすべき点がいくつもございました。
他にも加賀市では、観光客向けにのりもの券・施設入場券・スイーツ券がセットになった ECO 乗りクーポンや、平日の夜・土日・祝日限定で EV 公用車がレンタル出来るカーシェアリングサービス OFFON などの交通サービスがあるそうです。

【根本】
今回の視察で伺った加賀市の「のりあい号」は各まちにある停留地点と病院・スーパーなどあらゆる施設や店舗の間で利用できるサービスである。事前の予約はインターネットからできるがデジタル化に追いつけない人の為にオペレーターでの対応も対応もしている。そこで何処に行きたいかを伝えれば４つのルートをどう乗り継ぐか丁寧に教えてくれる。そのコミュニケーションもある意味高齢者にとっては魅力的なのではないかと思う。市の方の「公共交通整備というより福祉事業とらえています」との言葉に温かさを感じました。本市の公共交通も課題は多くありますが、加賀市での取り組みも参考にしていければと思います。

視 察 先　石川県金沢市
視 察 日　R5年8月8日（月）10:00～11:30（市役所内にて研修）
13:00～14:30（玉川公園・こども図書館等視察）
視察内容　中心市街地活性化について
視察目的　令和四年に第４期金沢市中心市街地活性化基本計画を策定し、まちなか定住人口の増加のための取り組みや結果、さらに公園再生活用事業や特別支援教育サポートセンター整備など本市の今後の中心市街地活性化基本計画に参考にする。
出 席 者　金沢市　都市政策局　企画調整課　総合調整係　主査　今井　隆治　様
金沢市議会事務局　担当次長兼事務調査課　課長　上出　憲之　様

金沢市の概要について

金沢市は、人口 458,217 人（令和５年８月１日現在）、面積 468.81km²。歴史・文化の蓄積により形成された自然豊かな都市。歴史的特性は、14 代の各藩主が戦いを避け学術、文化を尊重。約 400 年以上戦争の被害を受けず、歴史的建造物など数多く残っている。

金沢市中心市街地活性化の取組みの経緯について

H9　全国に先駆けて庁内プロジェクトを設置し、施策検討を開始
H10　中心市街地の整備改善及び商業棟の活性化の一体的推進に関する法律」施行
「金沢市中心市街地活性化基本計画〈旧第１次〉」策定（H10～H15）
H16　「金沢市中心市街地活性化基本計画〈旧第２次〉」策定（H16～H20）
H19　認定第１期「金沢市中心市街地活性化基本計画」策定（H19～H23）
H23　認定第２期「金沢市中心市街地活性化基本計画」策定（H24～H28）
H28　認定第３期「金沢市中心市街地活性化基本計画」策定（H29～R3）
R3　認定第４期「金沢市中心市街地活性化基本計画」策定（R4～R8）

金沢市役所内での視察の様子

１．　旧第１次基本計画について

テーマ　にぎわいと伝統が調和した活力ある中心市街地の形成

目標歩行者通行量の２割アップ

基準値（H9）　休日 76,956 人　平日 61,979 人

実績値（H15）　休日 77,675 人（+719）　平日 46,644 人

２．旧第２次基本計画について

テーマ　まちなかの定住と交流促進を図り、まちを元気に

定住目標

重点整備地区の人口増加

基準値（H15）▲250 人　目標値　プラスに　実績値（H20）+53 人

まちなか区域の新規着工住宅個数

基準値（H15）427 戸　目標値　累計 2,500 戸　実績値（H20）累計 2,747 戸

※定住人口の増加は見られるが、まちなかの歩行者通行量は年々減少傾向になっている

３．認定第１期基本計画（H19～H23）

テーマ　人が住まい、集い、にぎわう、元気な中心市街地を目指して

事業数　168 事業

主な取組み　金沢駅西広場の再整備、武蔵北地区再開発、近江町いちば館整備

目標１　誰もが暮らしやすい中心市街地

中心市街地の人口社会動態　基準値 462 人　実績値 +38 人

目標２　にぎわいと交流が生まれる中心市街地

主要商業地の休日歩行者自転車通行量　基準値 73,292 人 実績値 70,600 人

目標３　過度に自動車に依存しない中心市街地

金沢ふらっとバスの乗車人員　基準値 708,478 人　実績値 776,852 人

４．認定第２期基本計画（H24～H28）

テーマ　人が住まい、集い、つながる、中心市街地の実現をめざして

事業数　153 事業

主な取組み　片町 A 地区再開発、公共レンタサイクル、武蔵北地区再開発

目標１　誰もが暮らしやすい中心市街地

中心市街地の人口社会動態　基準値 +26 人　実績値 +102 人

目標２　にぎわいと交流が生まれる中心市街地

主要商業地の休日歩行者自転車通行量　基準値 113,089 人 実績値 110,173 人

目標３　過度に自動車に依存しない中心市街地

公共レンタサイクル「まちのり」利用回数　基準値 ―　　実績値 147 千回／年

※H27 年３月 14 日北陸新幹線金沢開業もあり、中心市街地の観光施設、来街者は増加したが、市内の人は離れてしまった

5. 認定第３期基本計画（H29～R3）

テーマ　「住む、訪れる、働く」魅力にあふれ交流と生活が調和した中心市街地を目指して

事業数　　138 事業

主な取組み　長土堀青少年交流センター、武蔵南地区再開発、建築文化拠点など

目標１　まちなかの定住を増やす

中心市街地 45 歳未満人口の年間社会動態　　基準値 ＋94 人　実績値 ＋15 人

まちなか住宅支援制度活用した県外から移住者数　基準値 23 人　実績値 9 人

目標２　幅広い年代を対象とする　魅力ある商業環境を作る

商店街店舗の新規出店数　基準値 21 店舗　　実績値 21 店舗

目標３　公共交通を優先したまちなかの交通環境を整える

バス乗客者数　　基準値 80,466 人　　実績値 55,202 人

目標４　歴史文化資産を活かし市民・来会社を引きつける

中心市街地の文化施設利用者数　基準値 338,677 人　　実績値 109,699 人

外国人入り込み客数　　基準値 256,000 人　　実績値 4,638 人

※コロナ禍という状況の中、目標達成には厳しい状況である。

6. 認定第４期基本計画（R4～R8）

テーマ　多様性と包括性の確保住む人と訪れる人が「しあわせ」を共創する持続可能なまち

事業数　115 事業

基本方針１　住む人にも訪れる人にも快適で楽しいまちづくり

目標　　まちなかの定住を増やす

片町四番組海側地区再開発事業、特別支援教育サポートセンター、公園再生活用

中心市街地 45 歳未満人口の年間社会動態　基準値 ▲15 人　目標値 ＋60 人

目標　　ウォーカブルなまちを形成する

都心軸集客力向上店舗整備、公共空間の利活用、犀川エリア利活用

主要商業地の歩行者自転車通行量　　基準値 59,155 人 目標値 103,600 人

基本方針２　人も地球も元気になるまちづくり

目標　　公共交通を優先したまちなかの交通環境を整える

金沢 MaaS、第３次金沢交通戦略推進事業、金沢交通コンシェルジュ事業

まちなかにおける自動車分担率　　基準値 45%　目標値 42%

基本方針３　文化やまちの個性を磨き高めるまちづくり

目標　　歴史的文化資産を活かし市民、来街者を引きつける

金沢未来のまち創造館、SDGg 未来都市、金沢大柳宗理デザインミュージアム

金沢未来のまち創造館等利用者数　　基準値 171,206 人　目標値 357,000 人

金沢市夢ある公園再生・活用事業について

玉川公園（インクルーシブ遊具整備）令和５年３月完成

パーク PFI　民間投資によるサービスの向上

老朽化した公園内の遊具をインクルーシブ遊具に変更

椅子型ブランコ（背もたれ付き）

シェルター型遊具

すべり台　　全ての遊具回りにんでもケガしにくいようにゴムチップが敷かれている

玉川こども図書館

地下１階地上３階建て　蔵書能力約 21 万冊　公衆無線 LAN 整備

令和４年３月完成、令和４年４月供用開始

１階　木とふれあい、遊びやお話を楽しむフロア

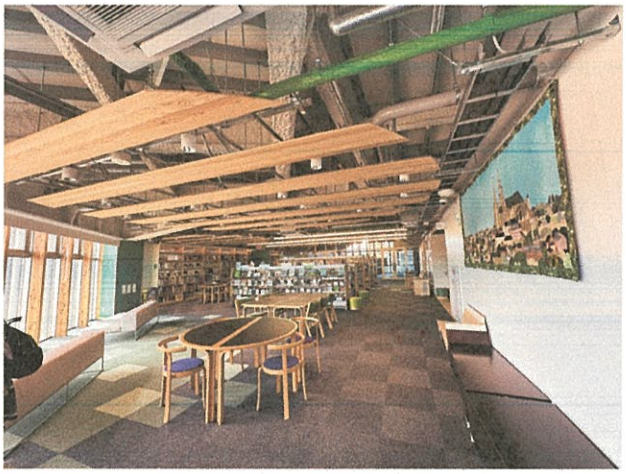
木の広場　はじめまして絵本の部屋

２階　本と情報に出会い、読む力をのばすフロア

図書コーナー　メディアブース、読書活動室

３階　読書と体験を通して、興味関心が広がるフロア

図書コーナー　交流ホール　集会室　グループ活動室



主な質疑応答について

Q　中心市街ににぎわいをつくるために、若者はどのように参画しているか。
A　若い世代が金沢市に愛着を持ち、まちづくりに積極的な参画をしてもらうために、「未来へつなぐ金沢行動会議」を設置している。また、各種検討委員に若い世代や大学生枠を設けて参加してもらうなどの実証実験を行なっている。地域おこし協力隊にも積極的に中心市街地活性化に取り組んでもらっている。

Q　中心市街地活性化について、市民の声をどのように反映しているか。
A　アンケートを実施し、その結果を担当部署で共有し、政策に反映するようにしている。

Q　金沢市への移住定住者についてどのエリアからが多いか。
A　県内、福井などからが多い。

Q　「金沢クラフトビジネス創造機構」とは、どのようなものか。
A　2009年ユネスコのクラフト創造都市に認定された。多数の工芸品をビジネスに特化した事業展開を行うことになり、販路拡大のため組織が改編され、2011年7月に現在の「金沢クラフトビジネス創造機構」となった。

Q　玉川こども図書館について
A　玉川こどものための専門図書館として開館した。中央地区教育施設等再整備の一環で、中央小学校、玉川こども図書館、金沢市公文書館の一体整備で新たに整備をした。

Q　ウォーカブルなまちづくりについて
A　新たに、犀川周辺エリアに、テントなどの利活用を図るような実証実験を行なっている。

Q　歴史や文化資産を残していくための取り組みについて
A　町屋の保全や有効活用を行うために、町屋バンク制度を取り入れている。

Q　金沢ふらっとバスについて
A　路線バスが通れない中心部の小路を巡回するために、平成11年コミュニティバスとして運行開始した。料金は大人100円、こども50円。4ルートあり、20分間隔で運行している。

所感

【平石】

全国でも先駆けて中心市街地活性化に取り組んでいる金沢市のお話は参考になった。特に、昨年策定した第４期計画では、新しい都市像をつくることを目的に、コト消費に重点を置いて様々な事業を行なっている。さらに、若者や大学生や地域おこし協力隊など若い力を中心市街地活性化に取り入れているとのお話を伺い、本市においても高校生などのアイディアや力を中心市街地活性化に、ぜひとも取り入れたいと思う。

【吉田】

金沢市の歴史的特性として４００年以上に渡り戦争の被害を受けず伝統文化が残るまちとして栄えてきました。８年ぶりに市長が変わり市長の本物志向のもと官民連携し地域ブランディングするとともに「能」等伝統文化を残すべく「素囃子・子ども塾等」後継者を育てています。また、若い世代、２０代の地域活性化の検討委員会を立ち上げ企業連携し地域力再生に取り組まれています。金沢フラットバスが市内を循環し（１００円/１人）市民はもとよりどなたでも乗車することができます。

R4～R８年の認定第４期基本計画のテーマ『多様性と包摂性の確保により住む人と訪れる人が「しあわせ」を共創する持続可能なまち』を掲げ、目標のまちなか定住者を増やす事業として、インクルーシブ公園、小中学校や子ども図書館の整備等を通じ、子育て世代をはじめとして、誰にとっても住みやすいまちづくりを推進。また、目標のウオーカブルなまちなかを形成することについては、例えば、犀川エリア利活用について“市民から使い方”を提案いただき市民とともにまちづくりをしています。このように中心市街地の活性化に取り組んでおられ本市においても参考とすべき点があると考えます。

【目黒】

2007 年中心市街地活性化基本計画が国の認定を受けて、昨年から４期目が始まりました。定住者を増やし、歩きたくなるまちづくりはコロナ禍により苦戦したそうです。これは全国的な事なので金沢市はどのような打開策を取り組んできたのか、とても興味深く説明を受けさせて頂きました。

金沢市は非戦火都市のため災害が少なく、城下町としての歴史的文化遺産が多数存在しており、多くの外国人観光客が訪れております。このように観光地としてブランディングは進んでいるが、街中の住民は減少している。

計画の４期目は「多様性と包摂性の確保」で住む人と訪れる人にも快適で楽しいまちづくりを掲げたそうです。地域おこし協力隊や移住者の活躍の場を積極的に設けたり、子育て世代

をはじめとする定住者を増やす「ウォーカブルなまちなか」の形成に向けて、新たな事業を始めたそうです。
若い世代を呼び込むためのインクルーシブ公園やこども図書館等の整備、歩きたくなるまちなかづくりとして「コト消費」につながる店を集める事業、金沢市の中心地を流れる犀川の河川敷を活用したイベント事業等を始めたそうです。また金沢中心活性化協議会には商工会議所会頭、商店街連盟の会長が参加しており、空き店舗を活用して若い人達の起業の支援も積極的に支援していくそうです。
本市の課題と合致することが多く見受けられ、今後も金沢市の取り組みを注視していきたいと思います。

【根本】
中心市街地活性化の強化に取り組んでいる金沢市を視察させていただきました。中心市街地に、子育て世代の定住人口を増やすため、インクルーシブ公園整備やこども図書館などの取り組みは大変参考になりました。同時に、歴史手的文化遺産を活かした来街者を引きつけるための取り組みにも力を入れており、重要伝統的建造物保存地区の茶屋街など中心市街地には、風情あふれる建物、和菓子屋、おしゃれなカフェや工芸ギャラリーなど魅力的な店舗が点在していて、たくさんの外国人観光客や浴衣姿の若者たちの姿を見かけました。また、４つのルートを回って観光巡りもできる『金沢ふらっとバス』の運行や、公共レンタサイクルもる。賑わいと個性を生かした美しいまちつくり、自動車に依存しない歩けるまちづくりを目指している取り組みを本市も参考にしていきたい。

視 察 先　富山県富山市
視 察 日　R5年8月9日（水）10:00～11:30（市役所内にて研修）
12:30～13:30（中ホール・プールバール現地視察）
視察内容　SDGs 未来都市について
視察目的　コンパクトシティや LRT、中心市街地活性化、シティプロモーションなど先進的な取り組みを行っており、2018 年に SDGs 未来都市として国から選定され、2020 年住み続けたいまちランキングでも１位に選ばれている。富山市の様々な取り組みについて、今後の本市のまちづくりに参考にする。
出 席 者　富山市　企画管理部　企画調整課　課長代理・政策調整係長　奥田　直哉　様

富山市の概要について

富山市は、人口 407,486 人（令和５年７月末現在）、1,241.70 km²。富山県に県庁所在地。県の人口の約４割を占める。全国住み続けたい街ランキング 2020 では、全国１位にランキングされる。昭和 20 年８月の大空襲により、市街地の約 99.5%が消失。戦後の復興事業により、広い道路と大きな街区で現在のまちなみを形成。同じ北陸でも金沢市とは異なる。

富山市のまちづくりの基本方針について

公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり

実現するための３本柱

1．公共交通の活性化

LRT ネットワーク形成。車に依存したライフスタイルから歩いて暮らせるまちを実現。

2．公共交通沿線地区への居住推進

都心地区（約 436ha）・公共交通沿線居住地区（約 3,521ha）を設定。

都心地区・公共交通沿線居住推進ゾーンは、良質な住宅の建設事業者や住宅建設購入する市民へ助成

公共交通沿線の居住人口の推移

2005 年　117,560 人（約 28%）→ 2022 年　163,871 人（39.9%）

2025 年　167,600 人（約 42%）を目標

3．中心市街地の活性化（主な事業）

富山ライトレール開業	2006年4月
グランドプラザ整備	2007年9月
AMAZING TOYAMA	2014年5月
富山路面電車南北接続開業	2020年3月
ストリートピアノ設置	2020年10月
ブールバール再整備完成	2022年9月
オーバードホール／中ホール	2023年7月

コンパクトなまちづくりの効果　地価調査結果（令和4年7月）

富山市　→　9年連続位で地価が上昇（全用途平均　前年比＋0.8%）

商業地　→　富山駅周辺を中心に21地点で上昇

住宅地　→　22地点で上昇

コンパクトシティ政策の深化（富山市版スマートシティ×富山市版コンパクトシティ）

これまでのコンパクトシティ政策の成果を最大限に活かし、新たな課題に取り組む。
暮らしの利便性を高め、市民一人一人の生活の質のさらなる向上を図り、政策の果実を市域全体に行き渡らせるために、デジタル技術を活用する。

SDGs未来都市とやまの取り組み

1．富山市が目指す「SDGs未来都市」

コンパクトなまちづくりや環境モデル都市等の取り組みをSDGgの視点から発展させる

2．SDGs未来都市選定の経緯

平成17年4月7市町村合併以降、将来にわたる持続可能な都市であり続けるため、「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を推進。平成20年に「環境モデル都市」、平成23年に「環境未来都市」に選定される。平成30年6月、国から「SDGs未来都市」に選定、「自治体SDGsモデル事業」に選定される。平成30年8月「SDGs未来都市計画（2018～2020」を策定。終了後、「第2次SDGs未来都市計画（2021～2025)」を策定。

3．SDGs 未来都市が目指すまちの将来像

コンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値創造都市の実現

① 都市のかたち

地域生活拠点とのネットワーク機能を高める

コンパクトシティへ

おでかけ定期券　孫とおでかけ支援事業

とやま花　Tram・花 Bus キャンペーン

② 市民性生活

健康・子育て・教育環境の充実

ヘルシー&交流シティへ

「とほ活」スマホアプリ・ベンチプロジェクト

角川介護予防センターなど

③ エネルギー

脱炭素とレジリエンスの融合

セーフ&環境スマートシティ

ゼロカーボンシティ宣言、小水力発電

モデル街区、海洋プラスチックごみ対策

④ 産業

企業の競争力強化・新技術の活用

技術・社会イノベーション創造都市へ

センサーネットワーク事業、スマートの譜業

こどもを見守る地域連携事業、河川水位監視

⑤ 都市・地域

ダイバーシティ・インクルージョンとの連携

選ばれる都市へ

SDGg の普及展開、SDGg サポーター※

SDGg 教育旅行、パートナーシップ展開な

SDGs サポーターについて※

2019 年度から SDGs に関心のある個人や法人を「富山市 SDGs サポーター」として登録を行なっている。1,044 名、339 団体・企業（2023 年3月 31 日現在）

オーバード・ホール／中ホール整備事業

施設名：富山市芸術文化ホール／中ホール　所在地：富山市牛島町９番 17 号

敷地面積：4,472.07 ㎡　延床面積：6,840.63 ㎡　地上４階、地下１階

中ホール 652 席　隈研吾氏監修

写真上：外観（東来館者用入口）

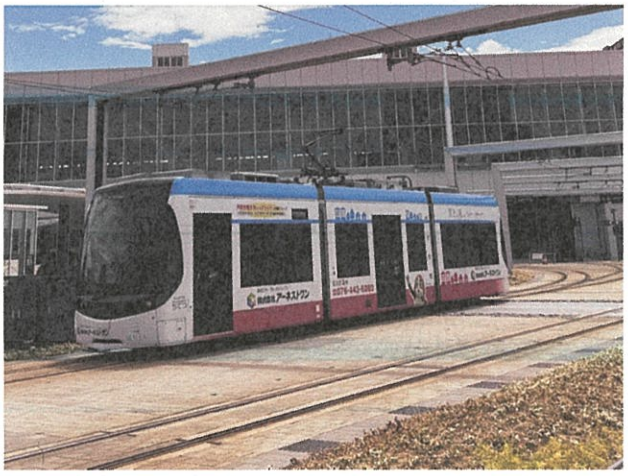
写真左：ホワイエ

ホールは 652 席備え、演劇やコンサートなど多目的な用途に対応。可動式のスライディングウォール扉を開くと、ホールとホワイエが一体になるため、大空間としても利用可能。他にも練習室、ウォーミングアップ室、音楽鑑賞室などもあり、音楽以外にもダンスやアートなどのイベントにも対応する、市民のための身近な活動拠点。

ブールバール再整備（ソーン A）
道路全幅員 60m、西側歩道部分 30m

オープンカフェと一体になったにぎわい空間。イベントも開催している。

シビックプライド醸成に向け、AMAZING TOYAMA モニュメントを駅前に設置。



近未来的なデザインの LRT

主な質疑応答について

Q　様々な事業を行う中で、市全体で職員同士のコミュニケーション、モチベーションを向上するためにどのような工夫を行なっているか。

A　タスクフォースを作成している。例えば、ひとり親支援のタスクフォースからお母さんに花束をプレゼントするなどの事業化を行い、様々なメンバーを集めることで、行政の縦割りを越えた職員のつながりを意識している。

Q　議員の関わりはどのようにしているか。

A　専門的な分野の人材を採用し、勉強会を行い、市の職員だけでなく議員も参加している。

Q　SDGs は、貧困や環境、ジェンダーレス問題などの解決をするためのイメージを考えていたが、コンパクトシティ政策と SDGs との取り組みがとても参考になった。

A　SDGs パートナーの田瀬氏の研修会に参加し、SDGs と政策のつながり（リンケージ）で考えるようになった。

Q　子育て支援について、学童保育の取り組みはどのようになっているか。

A　学童については、ニーズのあるところには、市として集中的に投資を行うようにしている。学童保育の需要をみたすようにしている。

富山市役所内での視察の様子

市議会議場

所感

【平石】

SDGs とは触媒であり、リンケージが大事であるとの考え方は、本市のこれからの未来を考えるうえで、本当に参考になった。富山市では、コンパクトシティ政策を一貫して推進し、中心市街地活性化、LRT の公共交通政策としての取り組みは、住み続けたいまちランキング 2020 で 1 位に選ばれたり、駅周辺の地価上昇など結果が伴っていることは全国でも好事例と言える。さらに、SDGs のフィルターを通して、発展と解決に取り組む姿勢は、本市においても取り入れることが重要である。今回視察を担当していただいた奥田氏には、是非とも本市に来ていただき、講演・研修会をしていただきたいと思う。

【吉田】

富山市は、２０１４年５月「富山市　はじまる」を合言葉とし高さ 4mに及ぶ AMEZING TOYAMA モニュメントを設置。そして現在では、富山市を愛し、誇りとする市民たちを巻き込み、各々の価値観を尊重しながらさらなる持続可能な都市像へ向けて「ひろがり」、そして「つながり」つづけている様子を最初に見せていただき、見せ方が大事であると感じました。

そして本題へ、持続可能な開発目標（SDGs）の世界共通な目標である 17 の開発目標について、環境・経済・社会の視点から相互のつながりを考え具体的に様々な事例（新型コロナウイルスによる身近な脅威）から学ぶとともに、17 の開発目標の望ましい未来の姿からバックキャステイング（逆算）し、未来を共に創造する（未来共創）ことが SDGs の第一歩としています。例えば、富山市の人口減少・超高齢化を考えるとき、「介護予防を行うことで緩やかに年を重ねていただく。このことは子どもの未来をつくる！につながっている。」との考えを伺いました。こうした事案から具体的に SDGs はそれぞれつながっていることを実感致しました。このようにつながりの視点が大切であると認識いたしました。

富山市は２０１８年６月１５日に全国初の「SDGs 未来都市」に国（内閣府）から選定されています。富山市は「コンパクトなまちづくり」に力点をおき、同時に複数のゴールに繋がり相乗効果を図っています。SDGs のそれぞれのゴールは触媒の役目を果たしていますとの考えも伺いました。このような考えのもと様々具体的な取り組みも伺いました。そしてコンパクトシティ×スマートシティ×SDGs⇒正のスパイラル、「誰も置き去りしない社会の実現」が富山市の SDGs 未来都市構想であり、本市の SDGs の 2030 の目標達成に向けてさらなるまちづくりの考え方に大いに参考になるものと考えます。

なお、富山市長のまちづくりへの想いは“楽しい・美味しい・おしゃれ”が大事ということを伺いとても大事な視点であると共感いたしました。

【目黒】
国から「SDGs 未来都市」「自治体 SDGs モデル事業」に選定されて、しかも全国住み続けたい街ランキング 2020 で堂々１位の富山市。
何でそんなに富山市は評価が高いのかと思っておりましたが、説明を受けて納得致しました。特に＜ＳＤＧｓ未来都市が目指す「まちの将来像」コンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値創造都市の実現＞取組方針とＳＤＧｓの目標がうまく合致しており本当に素晴らしいと思いました。
1.都市のかたち＜公共交通を軸とした拠点集中型のまちづくり＞
・おでかけ定期券・孫とおでかけ支援事業・とやま花 Tram 花 Bus キャンペーン等
2.市民生活＜ヘルシー＆交流シティの形成と質の高いライフ・ワークスタイルの確立＞
・とほ活アプリ・小学校跡地を活用し、温泉水を活用した介護予防施設 角川介護予防センター・総合的な支援体制　総曲輪レガードスクエア富山市まちなか総合ケアセンター等
3.エネルギー＜セーフ＆環境スマートシティと自立分散型エネルギーシステムの構築＞
・小水力発電・年間エネルギー収支をゼロにするＺＥＴの実現・海洋プラスチックごみ対策等
4.産業＜産業活力の向上による技術・社会イノベーションの創造＞
・Toyama Smart City Square・こどもを見守る地域連携事業・スマート農業・スマート水産業等
5.都市・地域＜多様なステークホルダーとの連携による都市ブランド力の向上＞
・ＳＤＧｓサポーターの取り組み・パートナーシップの加速・ＳＤＧｓ自動販売機の設置・とやま未来共創会議等
説明を受けて SDGs についての考えが一新致しました。国がやるべき事をＳＤＧｓを通して富山市がコンパクトに実現しているところが本当に素晴らしいと思いました。
今まで SDGs に関して、貧困問題、環境問題、ジェンダーレス等に考えが固執しておりましたが、
富山市の取り組みで「SDGs とは何か、何であるべきか」「未来から逆算して考えてみよう」この説明を受けたら、SDGs の取り組みが夢のあるものとして考えられるようになりました。当事者それぞれ違っていい、まちづくりに関して「たのしい おいしい おしゃれ」が必要との説明には、とても共感させられました。そして本市はまずここから始めるべきと考えさせられました。

【根本】

富山市の取り組みを伺い、SDGｓの 17 項目のアイコンのうち幾つかを目標として、それを達成していく事も大事だが、見るもの全てを SDGs のフィルター越しに見ることで、沢山の SDGs 達成に繋がっていく。という話がとても心に響きました。富山市ではコンパクトな町づくりを起点とし、同時に複数 SDGs のゴールに効果をあげる事を目指している。公共交通の利便性・利用促進→CO2 減滅→公共交通を使う事で歩くことが増える→心も身体も元気になる→歩く人が増えると町が賑わう。といったように包括的な連携政策・施策による持続可能な都市に繋がる。このような素晴らしい取り組みを学ばせて頂き大変参考になりました。また、いいと思った事は日本のみならず海外のものも取り入れていくダイナミックさ。『楽しい・美味しい・おしゃれ』をコンセプトとして町づくりをわくわくしながら考えてる熱量が伝わってきました。